

参 考 資 料

参考資料 1 検定試験の評価等に関するガイドラインの経緯について

参考資料 2 「検定試験の評価等の在り方に関する調査研究協力者会議」開催要綱

参考資料 3 「検定試験の評価等の在り方に関する調査研究協力者会議」委員名簿

参考資料 4 「検定試験の評価等の在り方に関する調査研究協力者会議」開催経過

参考資料 5 検定試験等に関する参考資料

検定試験の評価等に関するガイドラインの経緯について

平成20年2月 中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」

「民間事業者等が提供する教育サービスの質の保証や評価の在り方について検討するに当たり、その第一歩として、各個人の学習成果を評価する検定試験について、全国レベルでの一定の基準を満たすものを対象とし、個々の検定の評価手法の有効性、安定性、継続性及び情報の真正性等を確保する仕組みを検討することが考えられる。」

平成22年6月 検定試験の評価の在り方に関する有識者会議「検討のまとめ」

○「検定試験の評価ガイドライン」(試案)をとりまとめ。

平成23年2月 検定試験の自己評価に関する検討会

※有識者や検定事業者らにより構成。文部科学省はオブザーバーとして参加。

○「検定試験の自己評価シート」をとりまとめ。

上記のガイドライン(試案)及び自己評価シートを活用しつつ、検定事業者において、検定試験の自己評価の取組を自主的に実施。

平成27年3月 教育再生実行会議第六次提言

「『学び続ける』社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について」

「国は、大学等の学修に加え、大学等の公開講座、各種の検定試験、通信教育など個々人が学んだ成果を蓄積し、その後の就業や更なる学修にいかせるような学習成果の評価・活用の仕組みや、それらが社会的に認められるようにその質、内容を保証する仕組みを構築する。」

平成28年5月 中央教育審議会答申「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」

「国においては、『検定試験の自己評価シート』を活用した各検定事業者の自己評価の取組を一層充実するため、自己評価の項目等をガイドラインとして示すことが求められる。」

「第三者評価において評価する具体的な内容・項目については、第三者評価機関が自らの専門性を踏まえて定めることを基本としつつも、国は第三者評価において評価する内容・項目について一定の基準を策定することが求められる。」

「自己評価及び第三者評価の相互の体系やその詳細について更に国において検討を深める必要がある。その結果を踏まえて、現在は試案にとどまる『検定試験の評価ガイドライン』を策定することが求められる。」

平成29年8月～9月 検定試験の評価等の在り方に関する調査研究協力者会議が、「検定事業者による自己評価・情報公開・第三者評価ガイドライン(案)」をとりまとめ、8月23日の中央教育審議会生涯学習分科会に報告。その後、8月29日～9月27日にかけて意見募集を実施。

「検定試験の評価等の在り方に関する調査研究協力者会議」開催要綱

平成28年10月25日

生涯学習政策局長決定

1 趣旨

これまで「検定試験の評価ガイドライン（試案）について」（平成22年6月）や、「検定試験の自己評価シート」（平成23年2月）に基づき、主に各検定実施団体において検定試験に対する評価の取組が行われてきた。

その後の評価の取組の進展等を踏まえ、評価を通じた検定試験の質の改善と向上を一層効果的・効率的に進めるため、自己評価及び第三者評価の相互の体系、その評価内容・項目及び第三者評価機関の在り方等について検討し、ガイドラインを作成することにより、民間事業者等の主体的な取組を支援するため、「検定試験の評価等の在り方に関する調査研究協力者会議」を開催する。

2 検討事項

(1) 以下の事項に関する相互の体系や詳細についての検討及びその結果を踏まえた検定試験の評価ガイドラインの策定

①検定事業者が行う自己評価

②第三者評価機関による第三者評価 等

(2) その他

3 実施方法

2に掲げる事項について、別紙に定める有識者により、検討を行う。

4 期間

この会議の期間は、「2. 検討事項」に係る検討が終了するときまでとする。

5 庶務

この会議に関する庶務は、生涯学習政策局生涯学習推進課において処理する。

検定試験の評価等の在り方に関する調査研究協力者会議 委員名簿

乾	喜一郎	リクルート『ケイコとマナブムックシリーズ』編集長
沖	清豪	早稲田大学入試開発オフィス長
片桐	秀昭	一般財団法人日本書写技能検定協会専務理事
後藤	博史	公益社団法人全国工業高等学校長協会理事長、 神奈川県立神奈川工業高等学校長
小嶺	大進	調布市立緑ヶ丘小学校長
○	今野 雅裕	政策研究大学院大学特任教授
柴山	直	東北大学大学院教育学研究科教授
萩原	民也	特定非営利活動法人日本語検定委員会事務局長
林	規生	株式会社教育測定研究所所長、 公益財団法人日本英語検定協会理事
堀口	一秀	学校法人中央工学校理事長、 一般財団法人中央工学校生涯学習センター理事長
宮井	あゆみ	公益財団法人画像情報教育振興協会事務局長

敬称略・五十音順 (計：11名)

(○：座長)

「検定試験の評価等の在り方に関する調査研究協力者会議」の検討経緯**○第1回会議（平成28年12月6日）**

- ・ 検定試験の概況やこれまでの検討経緯に関する説明、自由討議

○第2回会議（平成29年1月17日）

- ・ 自己評価シート（案）についての審議①

○第3回会議（平成29年2月27日）

- ・ 自己評価シート（案）についての審議②
- ・ 情報公開チェックリスト（案）についての審議

○第4回会議（平成29年3月24日）

- ・ 「平成28年度検定試験の第三者評価に関する調査研究」報告書について、全国検定振興機構より説明
- ・ 第三者評価についての審議①

○第5回会議（平成29年4月27日）

- ・ 第三者評価についての審議②

○第6回会議（平成29年5月29日）

- ・ 高大接続改革の進捗状況について高大接続改革PTより説明
- ・ 第三者評価についての審議③

○第7回会議（平成29年6月30日）

- ・ 検定試験の評価に関するガイドライン（素案）について審議

○第8回会議（平成29年7月31日）

- ・ 検定試験の評価に関するガイドライン（案）について審議

検定試験等に関する参考資料

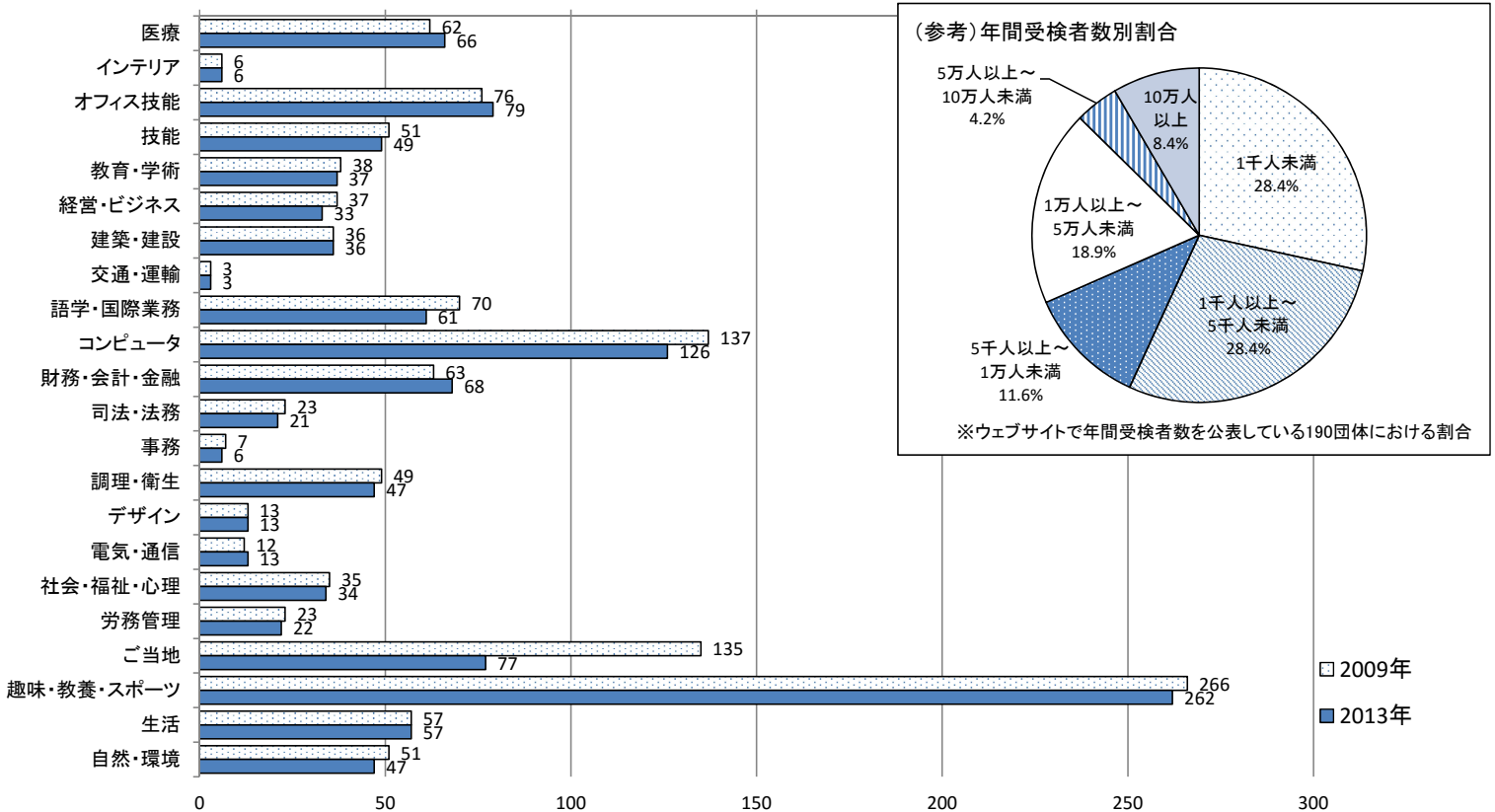
検定試験の現状

民間検定試験の概要

「第5回検定試験に関する実態調査」(全国検定振興機構、2013年12月～2014年2月)に基づき作成

※各検定試験実施団体におけるインターネット上の公表情報による調査、民間検定数：(2013年)1,163検定、(2009年)1,250検定

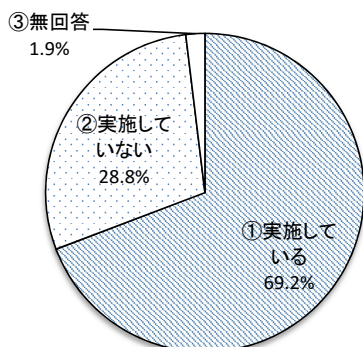
【分野別検定数】



検定試験の自己評価の実施状況等

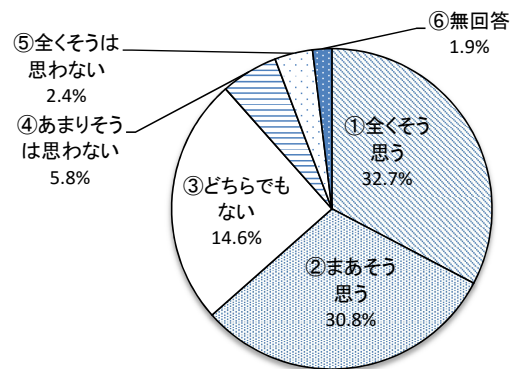
平成26年度 文部科学省委託調査「検定試験における第三者評価に関する調査研究」で実施した民間検定事業者に対するアンケート調査(調査対象:受験者数5千人以上の団体等90団体、回収率57.8%)の結果より作成。

【自己評価の実施状況について】



「検定試験の自己評価シート」を活用した自己評価を「実施している」団体の割合は、約7割。

【第三者評価の必要性について】



第三者評価の必要性について肯定的意見(「全くそう思う」「まあそう思う」)の割合は、約6割。

第三者評価の仕組みの必要性に関する回答(自由記述)

- 数多く存在する検定試験のなかで、どの検定試験が信頼に値するかを客観的に評価し公表することは、受験を目指す学習者たちのメリットとなる。
- 検定試験の質の向上を図り、受験者の信頼性を高めるためには「第三者」が関与する仕組みは必要であるとする。
- SNSでの評価、感想がWeb上に氾濫しており、受験者の生の声を集約すれば、受験者も検定実施団体もその検定の評価が高いか低いか、実際に役に立つのか立たないのか判断が可能。

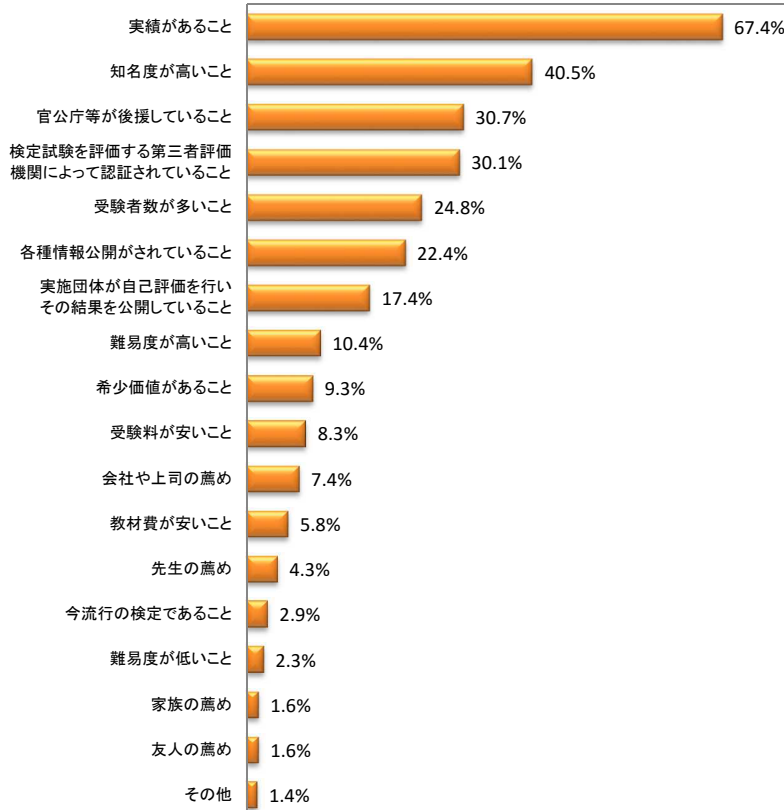
検定試験の信頼性についての受検者の判断基準

「第2回検定試験に関する実態調査」(全国検定振興機構、2011年2月)に基づき作成

※Webアンケート方式、検定試験受験経験者10,000サンプル

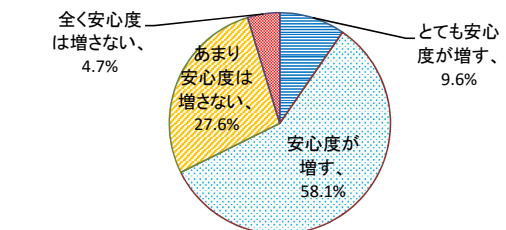
【信頼できる検定試験かどうかの判断基準】

「その検定試験が、信頼できるかどうかの判断基準は？」という問いに対する結果を集計(複数回答)



【自己評価を行う検定試験への安心度】

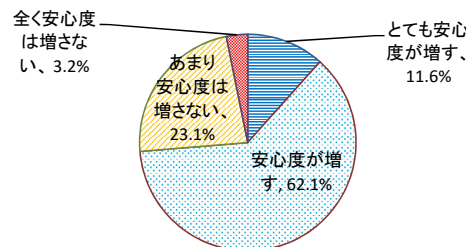
「今後自己評価(点検)を行い、その結果を公開する検定実施団体が実施する検定試験は、受験を検討する際に安心度が増すと思いますか？」という問いに対する結果を集計



自己評価により検定試験の安心度が増すと回答した受検者は約7割

【第三者評価による検定試験への安心度】

「今後検定試験の評価を行う第三者評価機関によって認証される検定試験は、受験を検討する際に安心度が増すと思いますか？」という問いに対する結果を集計



第三者評価により検定試験の安心度が増すと回答した受検者は約7割

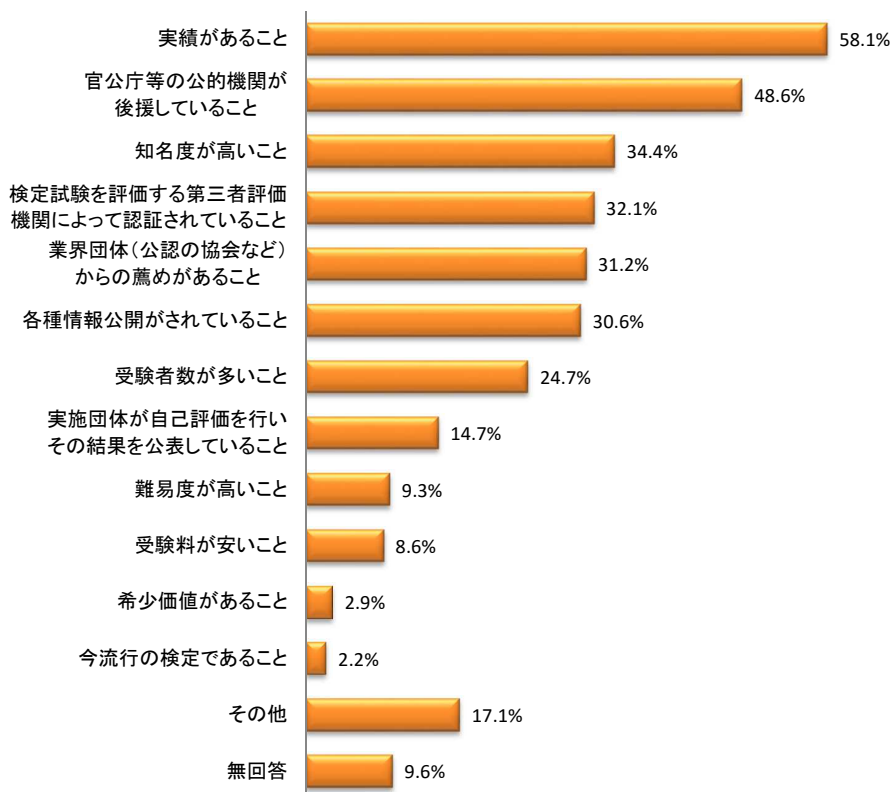
検定試験の信頼性についての大学等の判断基準

「第4回検定試験に関する実態調査」(全国検定振興機構、2013年1月~2月)に基づき作成

※郵送及びWebアンケート方式、全国の高等教育機関(大学・大学院、短期大学、高等専門学校、専修学校等5,000校)を対象、有効回答733サンプル

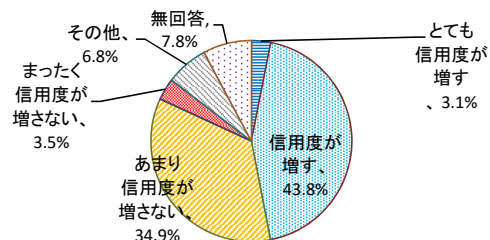
【検定試験・資格活用時の判断基準】

「貴校にとって、民間資格・検定を活用、奨励する際に判断する基準は何ですか。」という問いに対する回答を集計(複数回答)



【自己評価を行う検定試験への信用度】

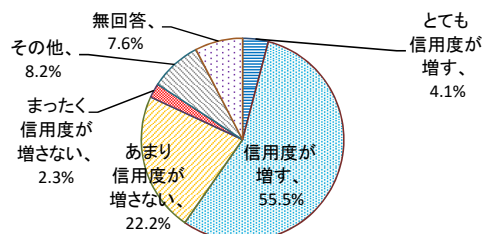
「今後貴校が、民間資格・検定を活用し、奨励する場合の判断基準とする際に、検定試験実施団体が自ら自己評価(点検)をおこない、その結果を公開する民間資格・検定に対しては、信用度が増すと思いますか。」という問いに対する回答を集計



自己評価により検定試験の信用度が増すと回答した大学等は約5割

【第三者評価による検定試験への信用度】

「今後貴校が、民間資格・検定を活用し、奨励する場合の判断基準とする際に、検定試験の評価を行う第三者評価機関によって認証される民間資格・検定に対して、信用度が増すと思いますか。」という問いに対する回答を集計



第三者評価により検定試験の信用度が増すと回答した大学等は約6割

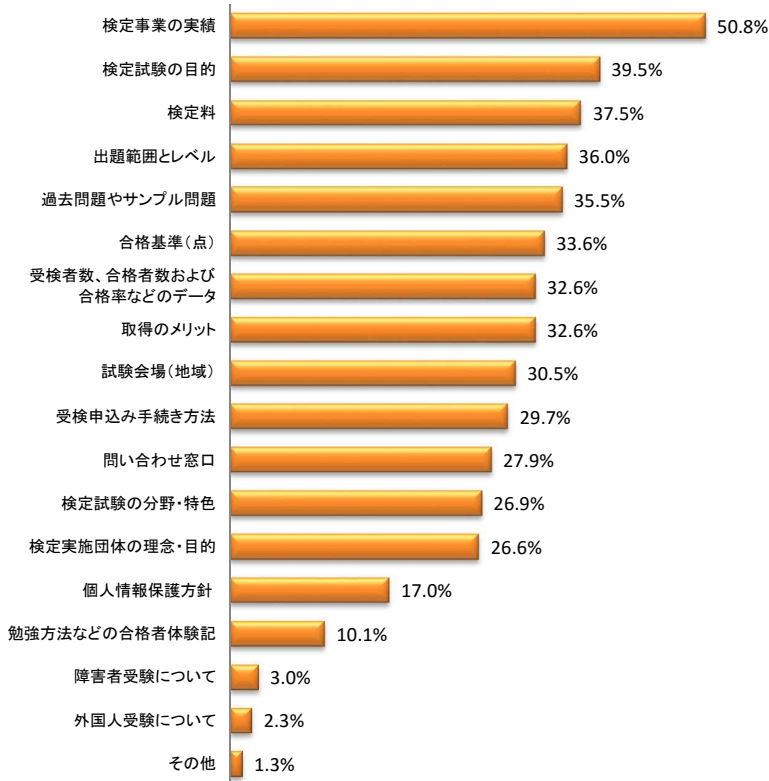
受検者が検定実施団体に求める情報公開の内容

「第2回検定試験に関する実態調査」(全国検定振興機構、2011年2月)に基づき作成

※Webアンケート方式、検定試験受験経験者10,000サンプル

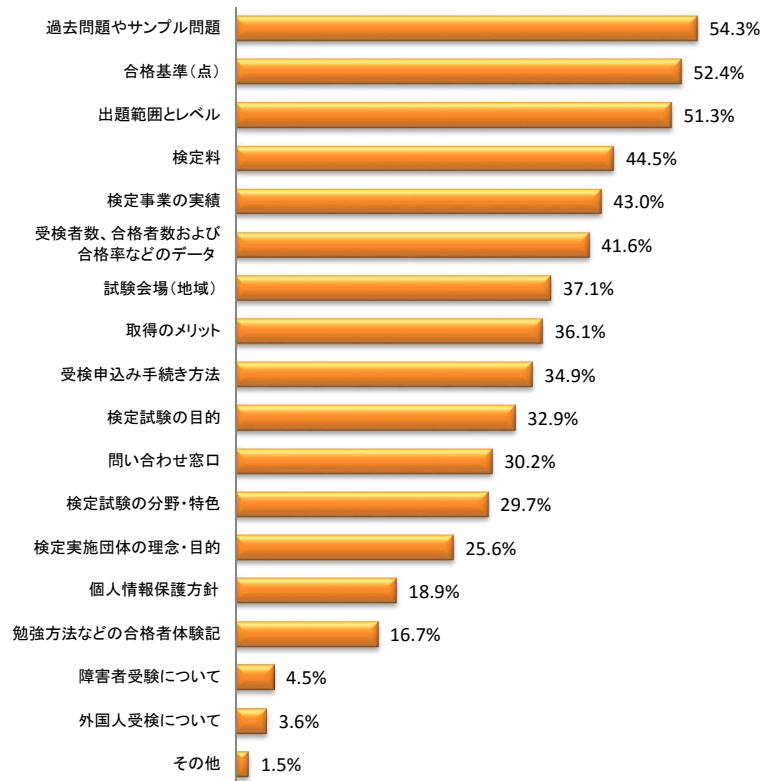
【検定試験のパンフレットやHPに記載されていると信頼できると思う項目】

「検定試験のパンフレットやホームページに記載されていると信頼できると思う項目」という問いに対する結果を集計(複数回答)



【検定実施団体に情報公開してほしいこと】

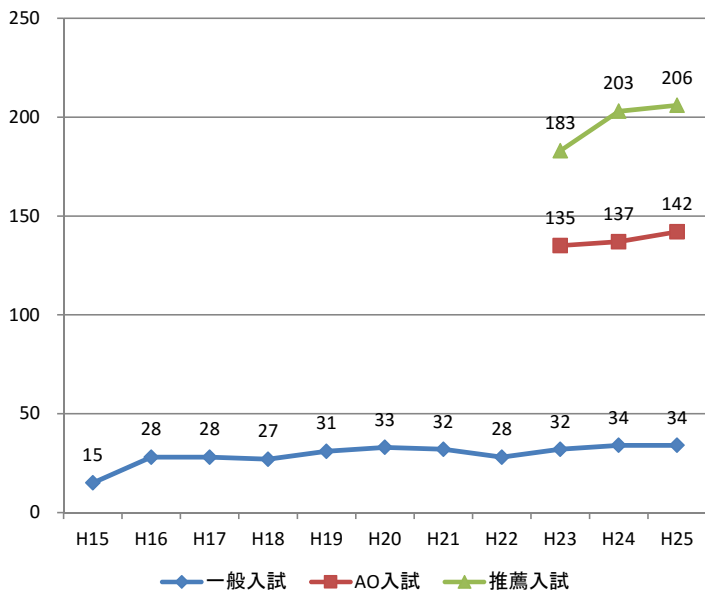
「検定実施団体に最も情報公開してほしいことは何ですか」という問いに対する結果を集計(複数回答)



大学入学者選抜における資格・検定試験等の活用状況(推移)

高大接続システム改革会議最終報告(平成28年3月)参考資料から抜粋

<語学関連> (大学数)



<語学以外> (大学数)

